

2026年2月20日(金)
令和7年度 第4回経済動向報告会

生活圏とオーバーツーリズム

orcie 大阪産業経済リサーチセンター
Osaka Research Center for Industry and the Economy
(商工労働部商工労働総務課)

山本敏也

オーバートゥーリズムは
今どうなった？

オーバーツーリズム コロナ禍の収束に伴い再発

✓ 2022年秋頃から外客数が増加(図1)

- コロナ禍後のリバウンド需要

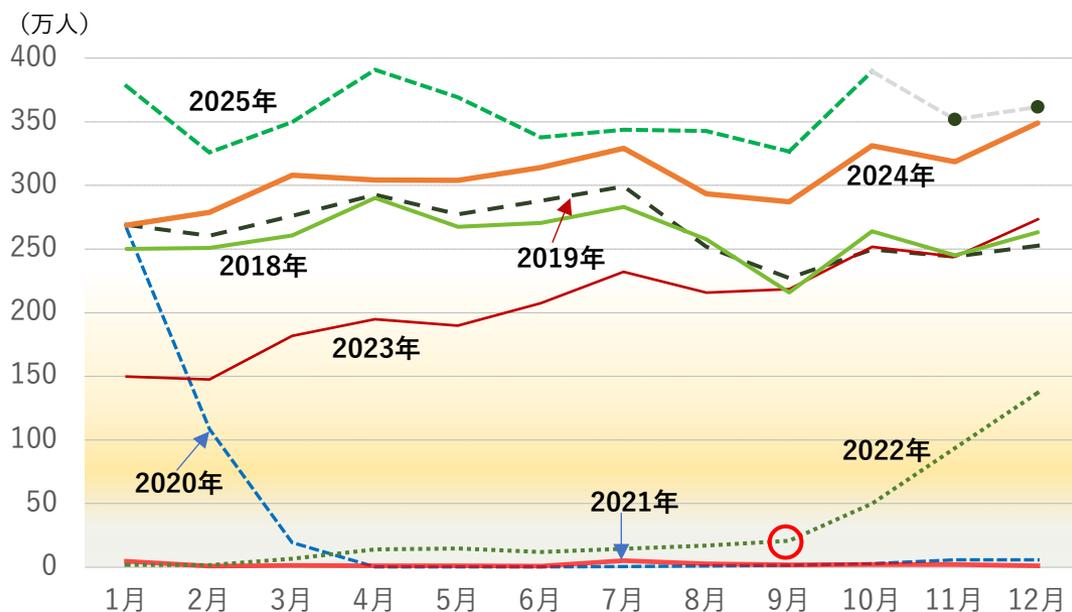


オーバーツーリズムの再発

✓ 定義

- 観光地やある地域に、観光客が想定以上に増加することで、地元住民の生活の質や観光客の体験の質・満足度を大幅に低下させるような状況

図1 月別の訪日外客数の推移



日常生活や事業活動に支障
(量的・質的要因)

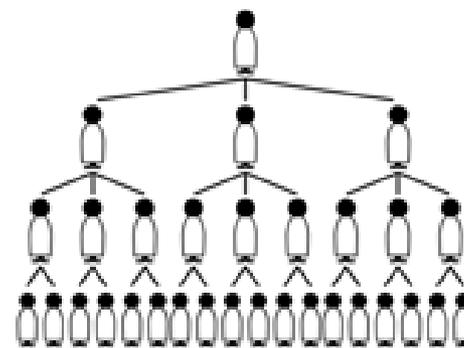
調査の特徴 スノーボールサンプリング (SS)

- ✓ 知人や友人の協力 ➡ 人的つながり、ネットワークを通じて対象者を拡大

【SSの特徴】

- ① 特定のコミュニティや集団の解析に利用
- ② 既存の人脈を活用 = 費用対効果が高い
- ③ 対象者が安心して参加 ➡ 回答数拡大
- ④ 紹介に依存 ➡ 「選択バイアス」の懸念
- ⑤ サンプルが母集団を代表しない可能性

図2 調査の概要



アンケート名	オーバーツーリズムの実態調査
実施期間	2024年6月12日～7月26日
調査対象	全国
回答数	267
調査方法	スノーボール・サンプリング法による標本収集（電子メール・SNSで回答ページへ誘導するウェブアンケート）

結果 回答者の居住地／職業

✓ いずれの属性にもバイアスあり (図3, 4)

- 29都道府県に展開も、回答者は偏在
- 知人の多い地域・職業に影響を受ける

図3 回答者の居住地

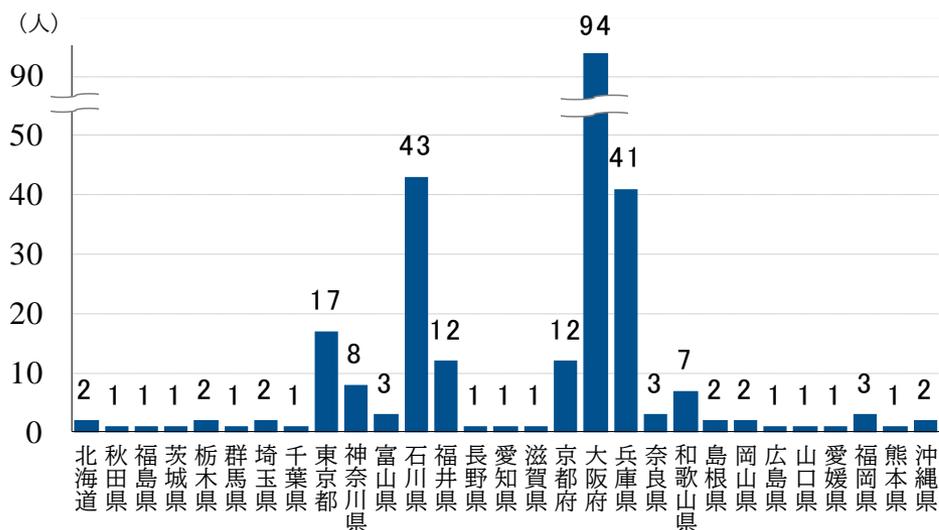
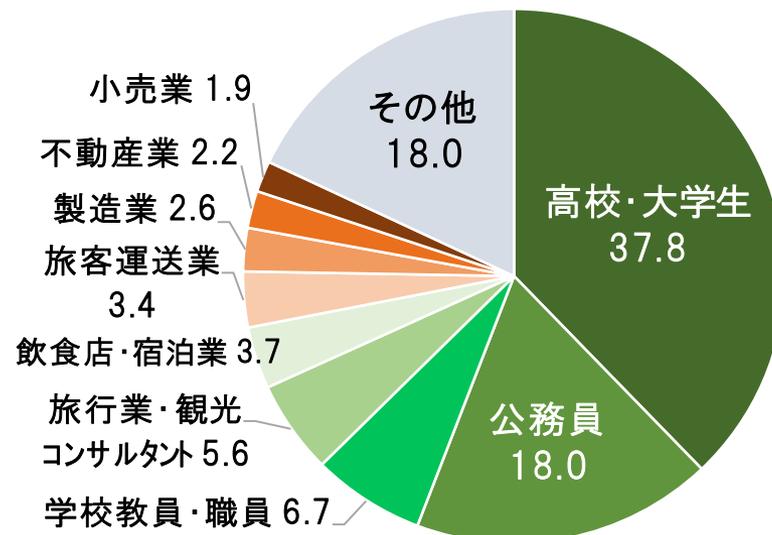


図4 主な職業



結果 居心地のよい場所 (=サードプレイス)

✓ 「図書館・公園」の利用が多い(図5)

- 30代以上の利用も多い
- マイプレイス型：地元性、個人志向強い
- 社交交流型も人気

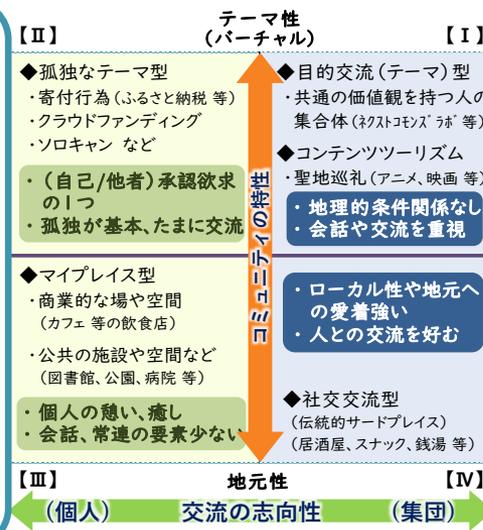
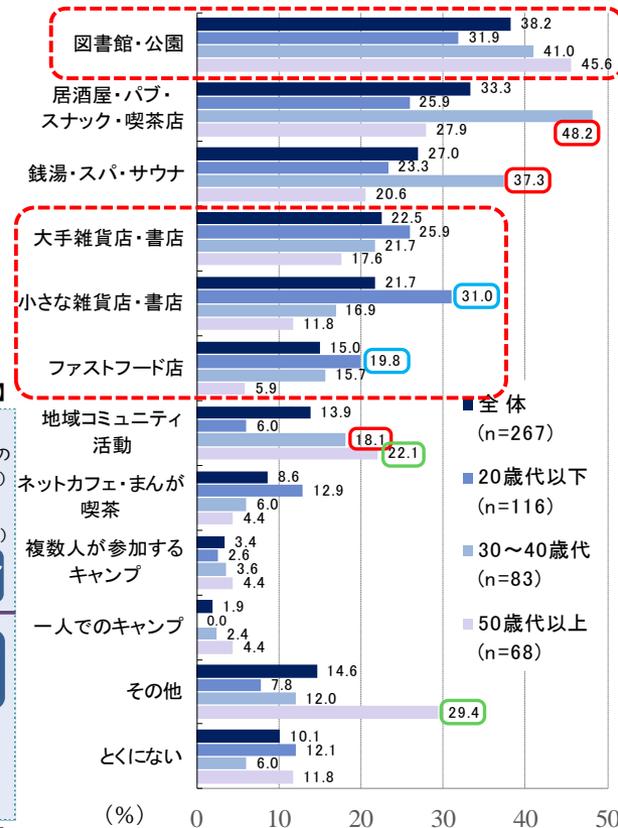
✓ 世代間の特徴

- 20代以下：マイプレイス型
- 30～40代：社交交流型、目的交流型
- 50代以上：目的交流型、「その他」
↳ 文化・娯楽・商業施設、自然、旅行・観光など

✓ サードプレイスが好きな理由

- 30代以上：人との出会い・交流、
店員・客との会話重視

図5 サードプレイスのタイプと利用状況



資料：石山「サードプレイス概念の拡張の検討」(2021)などを参考に加筆・修正。

世代が上がるほど社交的？

結果 生活圏域における観光動向

✓ 生活圏内*に多くの観光要素

*小中学校の通学、近場での余暇・娯楽、買物等ができる範囲

- 有名観光スポット・施設、宿泊施設、回遊性

✓ コロナ禍前(2019年)よりも観光客増加(図6)

- 増えたと思う(45%) > 思わない(21%)

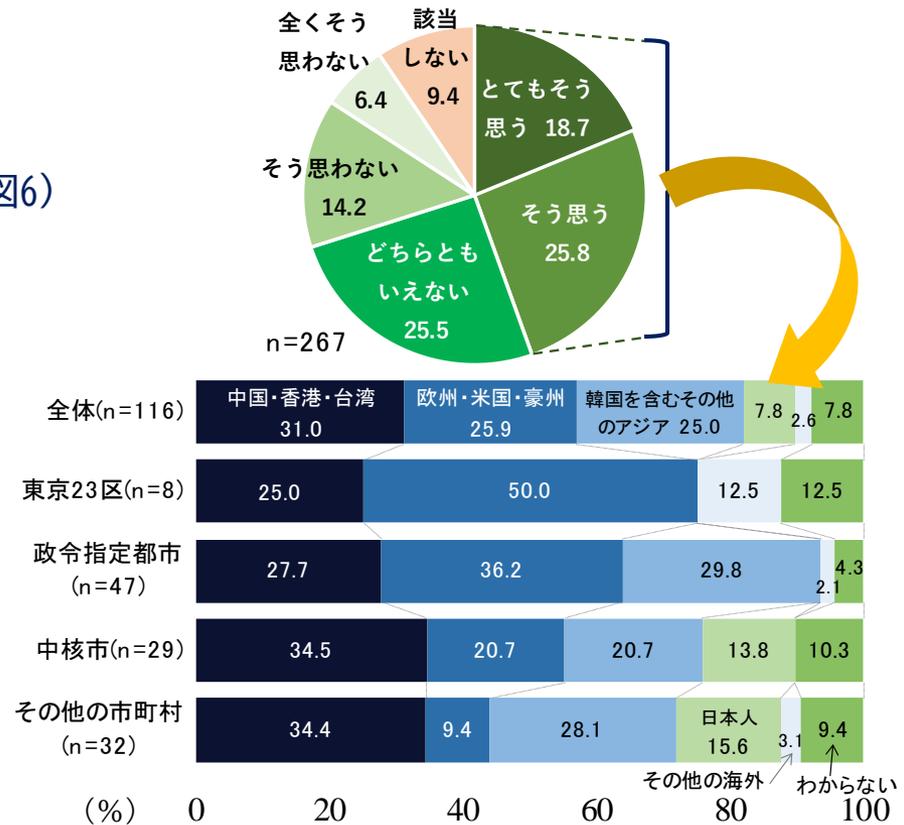
【最多国】

中・港・台 > 欧・米・豪 > その他アジア(含韓国)

✓ 都市規模による特徴

- ① 欧・米・豪：大都市ほど(高)
- ② 中・港・台：地方部ほど(高)
- ③ 日本人：中核市以下の都市で(高)

図6 生活圏付近の観光客の増加(コロナ禍前比)と内訳



注:①東京都区部、②政令指定都市(人口50万以上)、③中核市(同20万以上)、④その他の市町村。

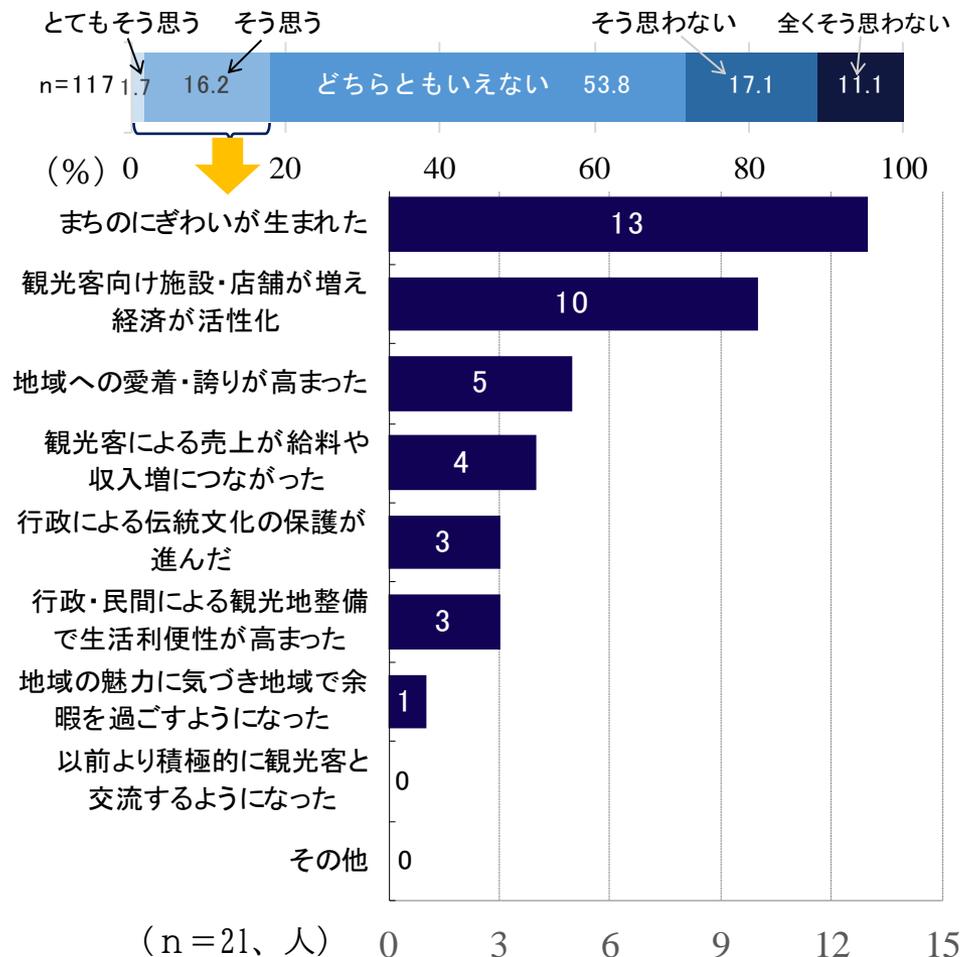
結果 生活圏の観光客増加による影響

✓ 良い影響：約18%

【上位回答内容】

- ① まちのにぎわい創出
- ② 観光客向け施設の増加
- ③ 地域への愛着や誇りの高まり
- ④ 給料・収入の増加
- ⑤ 伝統文化保護の推進／観光地整備による生活利便性の向上

図7 生活圏の観光客増による良い影響



注：影響の具体的内容は複数回答。

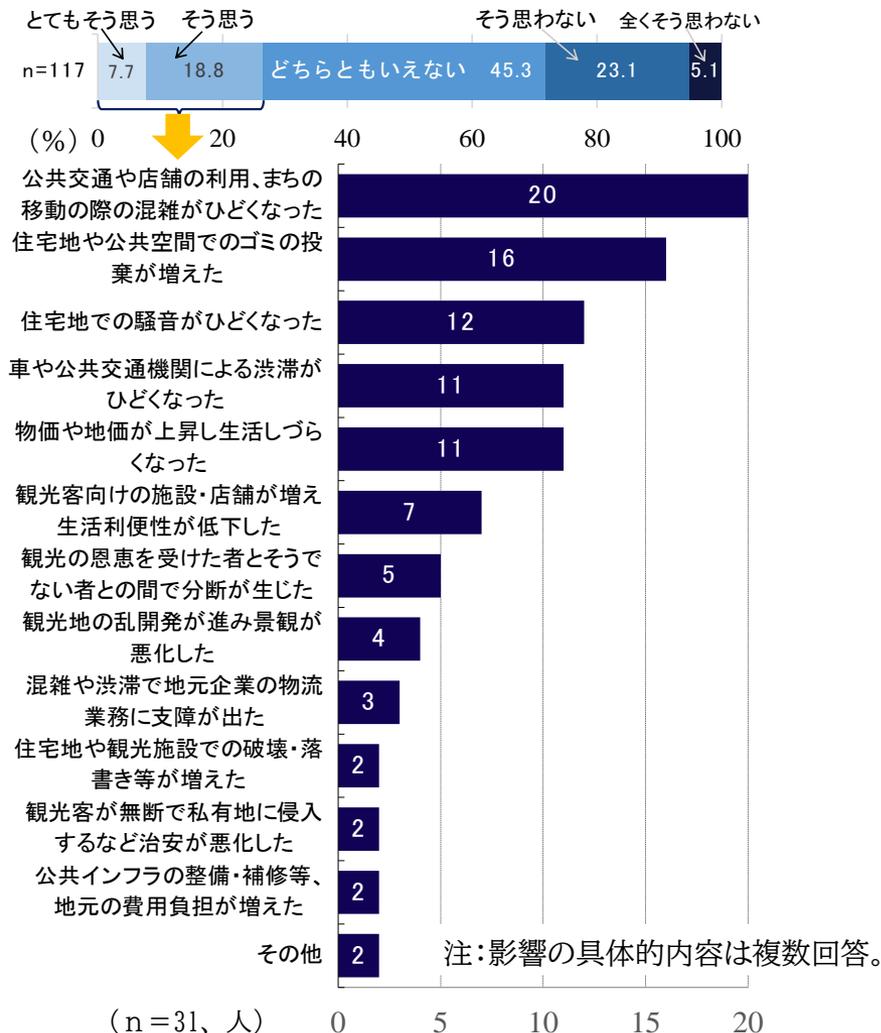
結果 生活圏の観光客増加による影響

✓ 悪い影響：約27%

【上位回答内容】

- ① 公共交通、店舗利用等での混雑悪化
- ② 住宅地・公共空間でのゴミ投棄
- ③ 住宅地での騒音悪化
- ④ 車・公共交通機関の渋滞悪化
- ⑤ 物価や地価の上昇

図8 生活圏の観光客増による悪い影響



結果 インバウンドの印象

✓ リッカート尺度による評価

* 5件法(全くあてはまらない～とてもあてはまる)

- 多重比較による世代間比較
(3群間の差の検定)

✓ 13項目中、5項目で有意差

- ①：50代以上 > 他の世代
- ②～⑤：50代以上 > 20代以下

50代以上はアクティブ？

図9 インバウンドに対する印象(世代間比較)

	統計量 <i>H</i>	<i>p</i> 値	比較ペア (有意差のあるもの)	<i>z</i> 値	<i>p</i> 値 Holm
①困っている外国人観光客を助ける	12.19	.002	20歳代以下－50歳代以上	-3.47	.002 **
			30～40歳代－50歳代以上	-2.38	.034 *
②出会った外国人観光客に親しみを感じる	13.71	.001	20歳代以下－50歳代以上	-3.70	< .001 ***
③外国人観光客と友達になったことがある	8.14	.017	20歳代以下－50歳代以上	-2.78	.016 *
④外国人観光客を旅先の自分と重ね合わせる	16.46	< .001	20歳代以下－50歳代以上	-4.05	< .001 ***
⑤外国人観光客と多くの共通点がある	7.94	.019	20歳代以下－50歳代以上	-2.81	.015 *

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

- ① 私は外国人観光客が地元経済に貢献していることに感謝する
- ② 私は困っている外国人観光客がいたら手助けする
- ③ 私は外国人観光客と交流を深めたいと思う
- ④ 私は外国人観光客に対して寛容だと思う
- ⑤ 私は生活圏付近で外国人観光客とあまり関わりたいとは思わない
- ⑥ 私は出会った外国人観光客の中に親しみを感じたことがある
- ⑦ 私は何人かの外国人観光客と友達になったことがある

- ⑧ 私は外国人観光客を旅先での自分と重ね合わせることがある
- ⑨ 私と外国人観光客には多くの共通点がある
- ⑩ 私は外国人観光客に好意を感じる
- ⑪ 私は外国人観光客がマナーをよく守っていると思う
- ⑫ 外国人観光客は私の日常生活の快適さを妨げている
- ⑬ 私は外国人観光客の急増が混雑や渋滞などの一因だと思う

結果 オーバーツーリズム(OT)の原因

✓ 観光客・行政・事業者の原因

【上位回答内容】

- ① 観光客のマナーと節度
- ② 国や自治体による制度整備の遅れ
- ③ 国・自治体と観光関連事業者・団体との連携欠如

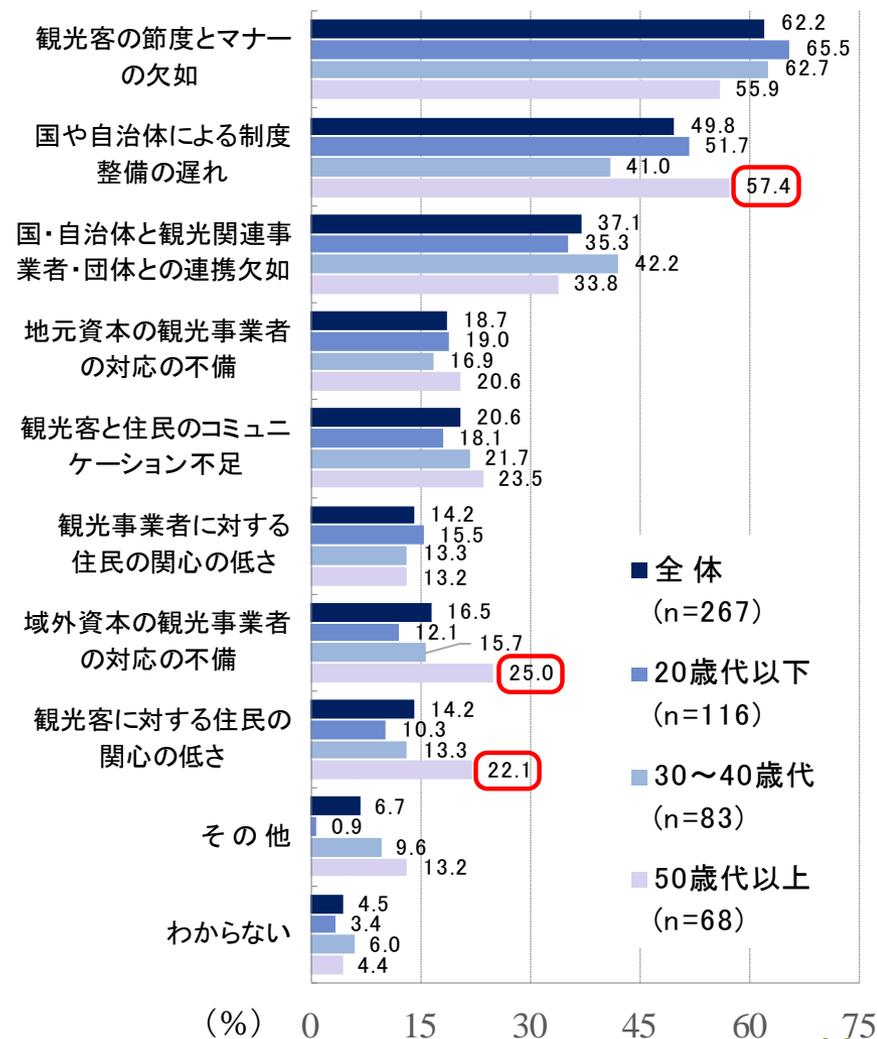
✓ 世代間の認識差

- 40代以下：観光客の節度とマナーの欠如
- 50代以上：行政の制度整備遅れ／域外資本の事業者の対応不備、観光客への住民の関心の低さ

✓ 生活圏の観光客の適正規模

- コロナ禍前と同程度 + それ以上 = 全体の **67%**

図10 オーバーツーリズムの原因



注：複数回答。

結果 OT対策、観光振興について

✓ OTの未然防止は必要

- 居住市区町村のOT対策：現状は許容レベル

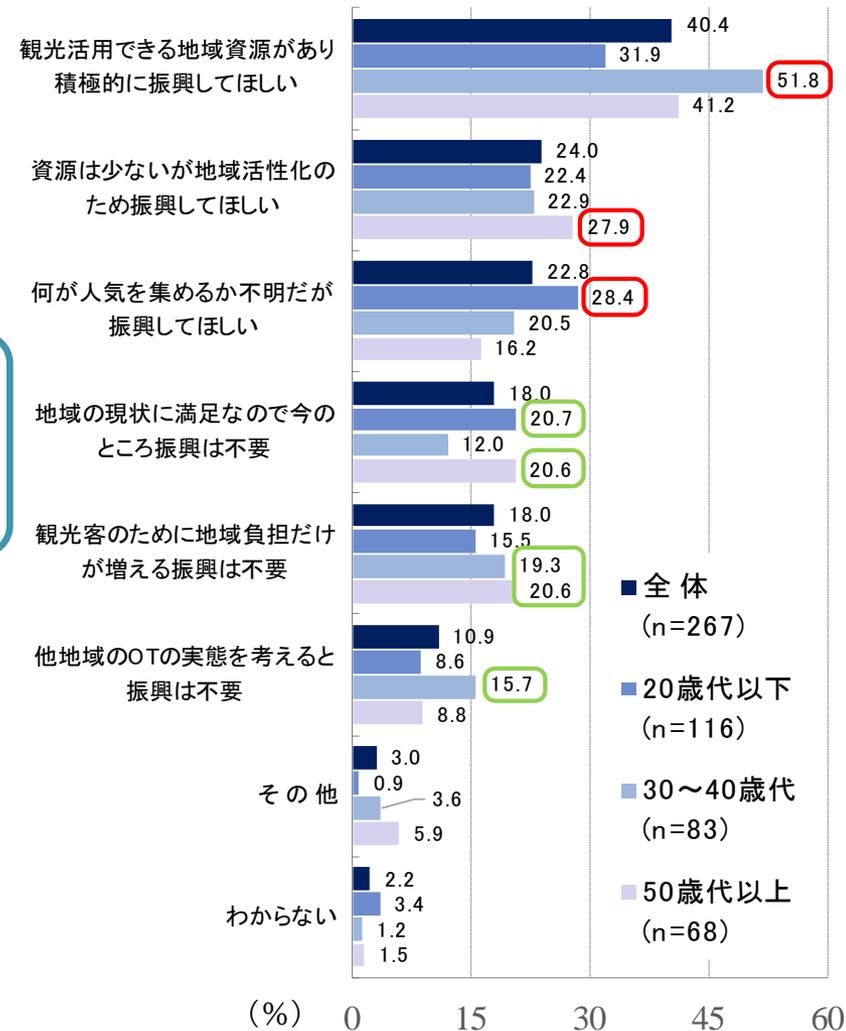
✓ 居住市区町村の観光振興(図11)

- 上位回答は肯定的も、肯定と不要が併存

- ① 20代以下：現状満足
- ② 30～40代：振興○ | 地域負担増× | OT警戒
- ③ 50代以上：振興○ | 現状満足 | 地域負担増×

生活圏に観光客が大挙するのを避けつつ、無理のない程度の観光振興を希望

図11 居住市区町村の観光振興についての考え



(%) 0 15 30 45 60

注：3つまでの複数回答。

ウェブアンケート調査から

分かったことと、

インバウンド観光のこれから

1 SS以外の方法で同じ結果を再現できるか？

- OTの実態をよりの確に
 - ・ サンプルの広がりや厚みの充実
 - ・ 住民意識に対する仮説

2 OTは全国に蔓延するほど深刻でない？

- 拡大懸念は残る
 - ・ 生活圏を起点にした観光行動の増加
 - ・ メガイベントの開催が引き金に？

3 年配者はより活動的で交流にも積極的

- Third Place^(TP)の利用、インバウンドの印象
 - ・ 多様なTPの利用実態
 - ・ インバウンドにフレンドリーな一面も

1 国・自治体の迅速で的確な対応

- 一定のルールの下で、持続可能な観光を提供
 - ・ 特区民泊対策
 - ・ 地域のキャパシティを守る → 適正な費用負担と利益還元の仕事

2 主役は観光客ではなく、「住民」

- 都市キャパシティ (空間的許容度) ≠ 住民キャパシティ (心理的許容度)
 - ・ 地域の持続性を保つ「絶対解」はない → 納得解をどう探るか
 - ・ 行政任せにせず、住民も主体的に参画

3 二項対立 (ゲスト / ホスト) からの脱却

- 対等でインタラクティブな関係性
 - ・ give and take で互いを尊重
 - ・ 「安売り」「おもてなし」だけではダメ

3 二項対立からの脱却 (量から質へ)

従来型観光の課題

- 二項対立：客(ゲスト) > 受入側(ホスト)
 - 主従関係が「旅の恥は掻き捨て」「一見客扱い」を生む
 - OT：ホスト(地域)は疲弊、ゲストが得られる便益も質的に低減



ポストコロナの新しい旅

- ゲスト・ホストの対等な関係
 - ホストが疲弊する事態を回避
 - 全てのステークホルダーに利益
- インタラクティブな交流
 - 貨幣価値に代えられない一期一会
 - 再訪・再会の機会創出

- 地域観光の発展：住民・観光客双方の視点に立つこと
- 関係人口を呼び込み、持続的な観光へ